

# 11 試験研究

## 林業試験場試験研究課題

試験研究項目	研究期間	研究内容	担当研究室
1 県産材の需要拡大に関する研究			
(1) 県産スギ板材の表面処理技術に関する研究	H28～30	スギ内装材のキズ発生を抑制できる表面処理技術（うづくり加工、表層圧密）を開発する。	木材利用
(2) 伐採木材（CLT）の高度利用技術の開発 （農林水産委託プロジェクト研究）	H25～29	国産材の新たな活用策として注目されているCLT等クロスパネルの開発、性能評価を行う。	木材利用
(3) スギ一般大径材を活かした心去り製品の開発	H25～29	スギ大径材の価値の向上と利用拡大を図るため、スギ一般（並材）大径材を使った新たな心去り製品の生産技術を開発する。	木材利用
(4) 製材JASに対応した県産材天然乾燥技術の確立	H26～28	県産製材品の天然乾燥を行う場合の気候に適した乾燥期間や割れの抑制方法をマニュアル化し、製材JASに対応した天然乾燥技術を確立する。	木材利用
(5) 現場施工が容易なユニット式耐力壁の開発	H28～30	スギ厚板を用いた耐力壁の施工の簡素化・効率化・工期短縮が可能な「ユニット式耐力壁」を開発する。	木材利用
(6) 直交層を挿入した新しいLVLの住宅用部材としての性能に関する研究	H27～29	県産材LVL（単板積層材）の用途開発による県産材製品の需要拡大を図るため、直交層を挿入して強度性能を高めた新たなLVL製品を開発する。	木材利用
(7) 燃料用木質バイオマスの水分管理技術に関する実証試験	H27～29	スギC・D材のエネルギー利用を促進するため、発電用を主とする原木の水分低減の予測など効果的管理方法の実証を行うとともに、チップ化後の効果的な水分低減の管理技術の実証を行う。	木材利用
2 健全で豊かな森林づくりに関する研究			
(1) ナラ枯れ被害先端地域における効率的防除技術の確立	H26～28	県中・西部のナラ枯れ被害先端地域において、カシノナガキクイムシを効率よく確実に駆除する技術を確立する。	森林管理
(2) 地下流水音探査法を用いた効果的山地災害対策のための技術開発	H24～28	林道・作業道開設予定地等で地下流水音探査法の実証試験を行い、本法による危険箇所判定技術を確立する。	森林管理
(3) シカによる造林木への食害防止のための耐雪型ツリーシェルターの改良・開発	H26～28	シカの食害から造林木を確実に守るため、現在流通しているツリーシェルターの耐雪性能を明らかにし、本県に適したツリーシェルターの改良・開発を行う。	森林管理
(4) 山地災害リスクを回避・軽減する現地判定技術の開発	H28～32	森林・林業の現場となる山地の潜在的な危険度を把握する技術、及び山地危険度に対応した作業システム（路網・架線等）の選択技術を開発する。	森林管理

試 験 研 究 項 目	研究期間	研 究 内 容	担当研究室
3 活力ある林業・山村づくりに資する研究			
(1) 低コスト再造林・保育技術の確立	H26～30	再造林にかかる経費を低減する植栽方法・保育手法を検証し、コスト低減が可能な造林・保育技術を確立する。	森林管理
(2) 長伐期施業に対応した列状間伐技術の確立	H26～28	間伐材搬出を目的とした間伐方法である「列状間伐」による残存木や林床植生への影響、伐採・搬出コストの調査を行い、長伐期施業に適した低コストで効果的な列状間伐の技術を確立する。	森林管理
(3) 高齢広葉樹林（ナラ類、シイ・カシ類）の萌芽更新技術の確立	H28～32	高齢・大径化したナラ類を主とする広葉樹林の萌芽力試験等を行い、広葉樹林を適切に循環利用する萌芽更新技術を確立する。	森林管理
(4) 特用樹木の効率的増殖技術の開発	H28～30	里山や耕作放棄地での植栽・栽培が期待される特用樹木（トチノキ、クワ、コウゾ等）について、さし木による優良品種の効率的な増殖技術を開発する。	森林管理
(5) ハイブリッド無花粉スギの創出	H24～33	既存の材質強度、耐虫性および耐雪性品種などに無花粉形質を取り込んだ付加価値の高いスギ造林品種を創出する。	森林管理
(6) 初期成長の優れたコンテナ苗生産技術及び植栽実証試験	H27～31	初期成長が優れた「コンテナ苗」の生産技術を確立するとともに、現地植栽における活着率・初期成長の向上による「伐採～地拵え～植栽」の「一貫作業システム」づくりに係る実証試験を行う。	森林管理